

○人口の推移 (昭和46・47年は10月1日推計人口) (その他は国勢調査人口)

年次	世帯数	総人口	男	女	一世帯人口	人口密度	人口指数
大正九年	二、二五一	一、九三九	五、八六六	一、一三三	五・三	二二四	一〇〇
昭和〇年	三、三六七	二、七八四	六、三三六	六、六〇三	五・四	二四三	一〇三
昭和五〇年	三、〇一六	一六、二八四	七、八四一	八、四四三	五・四	三〇六	一三七
昭和五五年	三、九七八	一六、二九八	七、七八七	八、五一二	五・五	三〇六	一三七
昭和五八年	三、一六一	一六、三三二	七、七二二	八、五二〇	五・一	二九四	一三五
昭和五九年	三、三八〇	一五、八七八	七、四三三	八、四四六	四・七	二八八	一三三
昭和六〇年	三、六五二	一六、二五三	七、五三三	八、七二八	四・五	二九五	一三六
昭和六一年	三、七九一	一六、六八九	七、八一七	八、八七二	四・四	三〇三	一四〇
昭和六二年	三、八九五	一六、八九九	七、九〇五	八、九八四	四・三	三〇六	一四二

○地区別人口と世帯数 昭和47・10・1現在

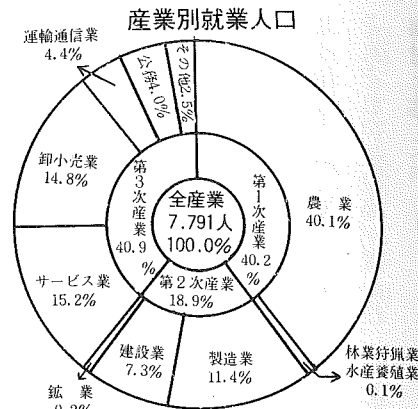
地区別	世帯数	人口		一世帯人口	人口密度	四〇年人口に対する比	
		総数	男女				
松梅	四四三	二、〇三六	九五五	一、〇八一	四・六	八二	九一・一
川上	一、三八四	六、七〇三	三、〇九八	三、六〇五	四・八	三四六	九九・〇
春日	二、〇六八	八、一五〇	三、八五二	四、二九八	三・九	七三八	一一八・五
総数	三、八九五	一六、八九九	七、九〇五	八、九八四	四・三	三〇六	一〇六・四

## 二、人口

昭和三十年の三村合併当時一六二九八人でその後ほとんど横ばい状態であったが、近時幾らかずつ増加の傾向を示している。これは佐賀市のベッドタウンとしての住宅の建設によるものと思われ、この傾向は今後も続くであろう。産業別による就業人口は第一次産業が減少し、第二次、第三次産業が次第に増加している。

## 三、町の生い立ち

大和町は歴史的遺産の多い所である。遠くは三千年の昔にさかのぼる縄文時代や弥生時代の石器や土器が発掘され、昭和二十四年の水害復旧工事で偶然発見された久留間の弥生時代遺跡など二千年前後の生活環境と当時の様相を伝える古代遺跡として貴重な資料であった。弥生時代に続いておよそ千五百年前の五世紀ごろできたといわれる船塚は、佐賀県一を誇る雄大美麗な前方後円古墳で、ここに葬られている豪族は大和朝廷と関係を持つ地方随一の権力者であった。



あつたろうといわれている。七世紀の始めごろ造られた小古墳は山脈の南麓に数多並んでいたが、柑橋園開拓のため取り除かれ今はわずかに数基を残しているのみである。

大化の改新によって国府が置かれるようになり、肥前国（佐賀県、長崎県の大部分）の国府はわが大和町久池井付近に置かれ、行政・防衛の中心地として重要な地点を占めた。国府の長である国司の中には遣唐使中有名人の一人である吉備真備や大江山の酒天童子退治で平安時代の快男子とつたわれた源頼光などもわが大和町に住んでいた。

奈良時代には大願寺が建ち、官寺として国分僧寺、国分尼寺が建立され、いずれも国の平穏と五穀豊

穰が祈念された。郷土における神社仏閣においても、肥前国一の宮であった河上神社（淀姫神社）があり、この社と一体の関係にある実相院やその外高城寺、玉林寺、万寿寺（お不動さん）等歴史も古くずれも勅願寺として時の朝廷や幕府に重きをなし、これら格調高い寺々が大和町の山麓部に建ち並ぶ姿は県内はもちろん県外にも広く知れ渡っている。大願寺の真手山健福寺も古刹で、ここにある銅鐘は高城寺の円鑑禅師の座像と共に国の重要文化財に指定されている。

藩政当時、旧川上村（小字川上を除く）は小城藩に属し佐保川島郷と称していた。大庄屋に続いて代官によって支配され、明治十一年佐賀郡となり、同十二年川上、東山田、池上、久留間の四か村に戸長役場が設置され、明治二十二年町村制施行により四か村が合併して川上村が誕生した。

旧春日村は佐賀藩で大字久池井は上佐嘉上郷（小字の川上を含む）、大字尼寺は上佐嘉下郷に属し、それぞれ大庄屋によって支配されていたが、寛政十年（一七九八）両郷の大庄屋が廃止され、駄市川原代官所の管轄下に入った。明治十一年に佐賀郡に属し、同十二年久池井村及び尼寺村に戸長役場が設置され、明治二十二年両村が合併して春日村となった。

旧松梅村は佐賀藩で山内郷に属し、大庄屋によって支配されていたが寛政十二年（一八〇〇）に大庄屋が廃止され、駄市川原代官所の管轄になった。明治十一年佐賀郡に属し、同十二年松瀬村、梅野村、神埼郡背振鹿路山の一部名尾を併合して松梅村と称した。

昭和二十八年町村合併促進法に基づいて、同三十年四月十六日春日・川上・松梅の三村を合併し、大和村として発足した。同三十三年六月一日佐賀郡富士村の最南部八反原を編入し、更に同三十四年一月一日町制を施行してここに現在の大和町が誕生したのである。以来大和町の歩みについて当町発行の大和町勢要覧「大和」から主な出来ごとの一部を抜粋してその足跡をたどることにする。

年月日	主な出来ごと	年月日	主な出来ごと
三五・七・八	都市計画法適用の指定を受ける	四二・三・三一	松梅小学校名尾・下田両分校を本校に統合
三六・四・二〇	天皇、皇后両陛下の奉送迎	四二・七・九	集中豪雨により各地に被害発生
〃 九・二九	開墾パイロット指定地域となる	四三・四・一	川上北部農山漁村用揮発油税財源身替農道整備事業着手（三か年）
三七・五・一四	佐賀―福岡線二級国道編入	〃	塵芥収集開始
三八・六・三〇	集中豪雨被害各地に発生	四四・四・一	地籍調査事業着手（十五か年）
三九・五・一三	開拓開墾パイロット事業のため国有林払下げを受く	〃 七・二二	新都市計画適用地域に指定さる
四〇・四・一	団体営開拓パイロット開墾事業着手（二か年）	〃 一一・二七	山村振興地域の指定
〃 四・二一	大和町の町章、町歌の制定	四五・一・一	五年年金制発足
四一・三・一六	川上峡温泉試掘事業（二か年）	〃 四・一	米生産調整対策事業（六か年）
〃 四・一	久留間北部農業改善事業着手（三か年）	〃	川上峡温泉浴場開設
〃 九・三〇	中央公民館落成	〃	国民健康保険事業助産費葬費補助金一万円支給開始

# 原始時代



原始人の生活(土器の作り方)

年月日	主な出来ごと
四五・九・一五	高令年金支給(満七〇歳以上の老人に對して)
〃 一〇・一	佐賀地区広域市町村圏に加入
〃 一〇・五	国道二六三号線(北山バードライン)全面開通式
四六・四・一	水田転換特別対策事業着手(三か年)
〃	下田農地開発事業着手
〃	心配ごと相談所設定
〃	塵芥収集(不燃焼物)無料収集開始
〃 五・一	国民年金支給開始
〃 七・六	佐賀都市計画区域決定
年月日	主な出来ごと
四六・七・六	市街化区域市街化調整区域に関する都市計画決定
〃 一〇・一	葬具貸付開始
〃	高令者に對して医療費助成
四七・二・二五	春日局区内電話自動化改式
〃 四・一	農業構造改善事業着手(四か年)
〃	柚木農地開発事業着手(二か年)
〃	惣座橋の落成
〃 七・二四	惣座橋の落成
〃 七・二〇	役場庁舎増築工事竣工
四八・二・二一	三反田局区内電話自動化改式